

「保健医療科学」
第59巻 第4号 予告

特集：子どもの健康と環境に関するエビデンス

胎児発育に影響を及ぼす環境因子	瀧本秀美
環境汚染物質と出生性比	須藤紀子
自閉症等に影響を及ぼす環境因子	藤原武男
先天異常に影響を及ぼす環境因子	佐田文宏
ぜんそくに影響を及ぼす環境因子	藤原武男
環境省エコチル調査の概要	佐藤洋
出生コホート研究の現状と今後の課題	
- 日本で前向き研究を実施してきた経験から -	岸玲子, 佐々木成子

編集後記

知人が起きがけに目まいの発作を起こした。発作が起きると立つことも座ることもできない。しばらくすると治まるが、繰り返す。受診すると「良性発作性頭位眩暈症」との診断であったが、投薬も治療も指導もない。「良性で心配ない」とのこと。でも、直らないのでインターネットで探し、耳石が元の位置に戻るような5分くらいの首の体操のページを見つけ、試したところやっと落ち着いた。

意外と患者数も多い病気らしいが、こんな簡単なことをなぜ教えてもらえないのか。「良性」とはいえ、本人にとっては大問題である。症状が改善するように助言することが必要なのではと思った経験であった。

増して難病や稀少疾患では、本当に診断が見つからない場合を含め、情報共有が一層難しいであろう。今回の特集では、情報共有や集積の課題が多く提示されている。一方で、PCR等の技術の普及により、昔であれば分からなかった病原体が同定され、毎日のように患者数が集計出来る-夢のようなことが現実になっている。研究と実際の情報共有の連携が一層求められていると思う。一人ひとりの健康な生活を支える意識を大切にしていきたい。

(水道工学部 浅見真理)